

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	福 井
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	福井市和田小学校（フロンティアスクール）								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	3	3	3		20	29
児童数	115	128	122	96	112	92		665	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人を伸ばす授業づくり
～基礎・基本の確かな定着をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

主として3年生以上の算数科
昨年度に引き続き、児童によって学習の理解度に差が付きやすいと考えられる算数科について実施。（T・T指導，少人数指導は主として第3学年以上で実施。第1・2学年は一部）

(2) 年次ごとの計画

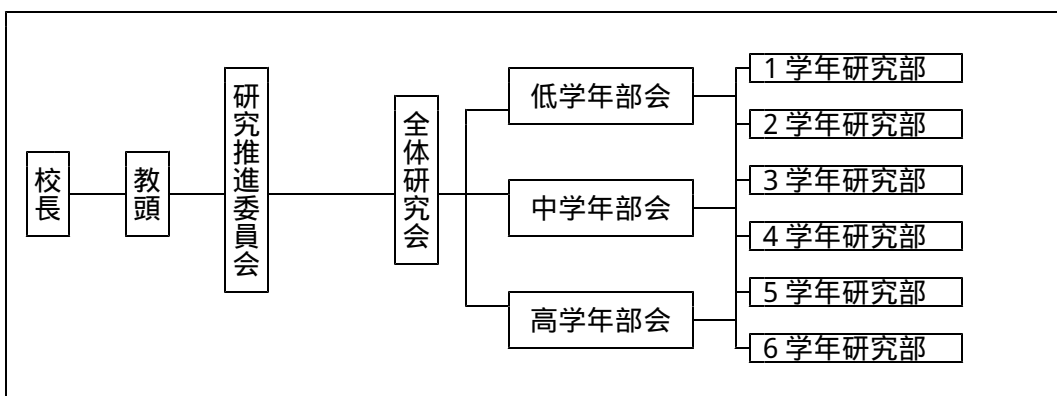
平成14年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るための個に応じた指導方法・指導体制の研究 <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度や興味・関心による少人数指導など、個に応じた指導を行うことで基礎学力の定着を図ることができる。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人一人のよさをのばす授業」「学力」「基礎・基本」の捉え方の共通理解 算数科における「基礎・基本」のあらいだし ・児童の学力調査（5月実施）昨年度の学習内容(算数科)の定着度の確認 ・授業研究 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての児童が充実感や成就感が持てるような授業 ・理解が遅れがちな児童への復習・補充の時間を指導計画上に位置づけ、「基礎基本の徹底」を意図した授業 ・自己評価や教師の判断により一応理解に至った児童を一斉授業の枠組みから解き放して、その関心・意欲，能力、特性に応じて弾力的に学習できる授業 ・課題の選択肢を複数用意し、児童自らが選択しながら自力で学習が進められるような授業 </div> <p>など一人一人をのばす授業をめざして、各学年において年間2～3回の授業研究会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習形態タイプの作成 単元の内容によって学習のグルーピング形態を工夫し類別する。 例 習熟度別グルーピング 学習速度に応じたグルーピング 興味・関心に応じたグルーピング
--------	---

	<p style="text-align: center;">課題に応じたグルーピング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察 ・評価規準（基準）についての学習会 ・評価基準の作成（特に算数科については詳しく分析する。） ・各学年で開発した教材の集積 ・少人数指導に対する児童と保護者の意識調査
--	--

平成 15 年度	<p>テーマ ・基礎・基本の定着を図るための個に応じた教材の工夫・指導方法の研究</p> <p>仮説 ・教材・指導方法を研究し、授業の質を高めることにより学力向上を図ることができる。</p> <p>研究内容・方法 ・児童の学力の追跡調査（5月実施） 2年生以上の学習内容（算数科）の定着度の確認をする。 ・教材の開発と指導方法の工夫 算数科の単元内容を検討し、T・T指導，少人数指導，習熟度別指導などから、より効果的な指導法を選択して実際の授業を構成する。 また、児童の理解を深め、思考の手助けとなるような教材を工夫する。 児童の主体的な活動につながる算数的な活動も十分取り入れたい。 その中から、各学年5単元については表にまとめる。（単元の工夫集） 昨年度に引き続き、作成した教材は単元毎にまとめ、学年毎に保管する。 ・年間指導計画の実践と修正 2年間の指導を基に、教科、総合的な学習の年間指導計画を修正し、次年度以降の計画を作成する。 ・読み・書き・計算などのドリル学習による基礎学力と集中力の育成 国語、算数の授業時間のはじめ5分間を、学習に対する集中力と基礎学力を高めるためのドリル学習の時間と位置づけ、年間を通して継続する。 ・授業研究及び授業公開 教材や指導法の工夫をした授業を各学年で実施し、第3学年以上ではそのうちの1回を公開する。 ・先進校視察 ・少人数指導に対する児童と保護者の意識調査</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 個に応じた指導と評価の研究</p> <p>仮説 児童一人一人を正しく評価し実態を把握することで、個に応じた指導を行うことができる。</p> <p>研究内容・方法 ・児童の学力の追跡調査 ・効果的な評価方法の開発 ・算数科年間指導計画の見直しと指導の工夫集の完成 ・個の学びが集団に生き、集団での学びが個に還る授業づくりの研究 ・授業研究及び授業公開 ・教科担任制の導入 ・学力向上フロンティア事業における研究の課題と成果のまとめ</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学力追跡調査結果について (CDTテスト)

	(観点別平均正答率)				(到達状況別人数)			総数	
	数学的な考え方	表現処理	知識理解	総合	到達度 A	到達度 B	到達度 C		
昨年度 (全国)	7.2% (7.3)	8.2% (8.2)	8.3% (8.2)	7.9% (8.0)	375人 (68%)	142人 (25%)	39人 (7%)	556人	14年5月実施
本年度 (全国)	7.9% (7.1)	9.0% (8.5)	8.6% (7.9)	8.6% (7.9)	441人 (81%)	88人 (16%)	17人 (3%)	546人	15年5月実施

昨年度に続き本年度も5月に算数科の学力テストを実施したところ、次のような結果が得られた。

全校的に見ると総合得点の平均正答率は8.6%で、これは昨年度より7%高い。また、昨年度はほぼ全国平均並だったが本年度は全国平均より7%高くなっている。

全校的な観点別の正答率を見ると、昨年度はどの観点も全国平均並であったが、本年度は全国平均より5%~8%高くなっている。

各学年の昨年度からの追跡結果を見ると、総合得点ではほとんどの学年で正答率は上昇しているが、観点別に見ると全ての観点で上昇しているわけではなく、逆に下がっている観点も見られる。

内容別に見ると「数と計算」と「図形」では、昨年度よりどの学年も5~10%上昇していて特に「図形」の上昇率が高い。

「量と測定」と「数量関係」では全国平均よりは高い数値ではあるが、昨年度に比べると下がっている学年がある。

到達状況別人数を見ると全校的には約8.1%(441人)が十分到達で昨年度より1.3%高く、ほぼ到達が1.6%(88人)で昨年度より9%減り、到達不十分は3%(17人)で昨年度より1.3%減っている。

算数科の授業において、昨年度から継続して単元の内容に応じた指導法を工夫してきたが、T・T指導、少人数指導、習熟度別指導などを効果的に組み合わせることにより児童の実態に応じた指導を展開することができた。

児童の意識調査においても、これらの指導には肯定的な感想が全体の70%以上を占めた。

習熟別の学習に取り組んだ単元では、学級を2~3のグループに分けることで昨年度からの課題である人数面の改善を図った。学級を解き学年で取り組んだ方がよい場合もあるので、指導者全員で相談しながら進めることで、より個に応じた学習を進めることができた。

本年度は第3学年以上の学年の算数科には、学年専属として担任以外の指導者が配置できた。(1・2学年は一部の授業)そのため、教材研究や打ち合わせが行いやすく、評価も継続的に行うことができた。

授業開始後5分間のドリル学習(主として国語科・算数科)では、授業の始まりと同時に開始することや、短い時間で実施することで学習に集中する力がついてきた。

また、継続することで計算や漢字の基礎的な力の向上を図ることができた。児童の意識調査においても75%の児童が、正確さや基礎学力が身に付いたと感じている。

2. 今後の課題

本年度は、個に応じた指導を実施する上で重要となる教材の工夫について研究を進めたが、今後もさらに修正を加えながら全単元について工夫することが必要である。

次年度以降は、本年度に引き続き授業の質を高めることをねらいとし、中でも児童が主体的に学習できるように思考や話し合いの場面をできるだけ多く設定し、学び合い、高め合っていく授業を作っていきたい。

次の指導に生かす評価について、本年度各学年で取り組んだものを全校の取り組みとしてまとめ、次年度以降につないでいきたい。

昨年度から算数科を中心に研究を進めてきたが、今後は他の教科に研究を広げ、これまでに得た結果を生かしていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

児童の学力の追跡調査(5月実施)
2年生以上の学習内容(算数科)の定着度の確認をする。

児童及び保護者の指導法や学力についての意識調査(5月・12月実施)
T・T指導や少人数指導、習熟度別指導を実施し、それに関する感想を調査することでその後の指導に生かす。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業と授業研究会
福井高志地区の小中学校を対象に全4回(各回1授業)を公開し、その後研究会を持つことで事後の指導の改善を図る。

平成15年6月20日	第5学年算数科	「変わり方」
7月3日	第6学年算数科	「平均とその利用」
9月18日	第4学年算数科	「式と計算」
11月26日	第3学年算数科	「重さしらべ」

学力向上フロンティア事業福井高志地区協議会(平成16年2月10日)において研究の実践報告と情報交換

参加者 ----- 福井・高志地区の各小・中学校の研究主任、参加希望の保護者

HP作成
研究のページでは、研究内容や公開授業の指導案などを公開。随時追加。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無